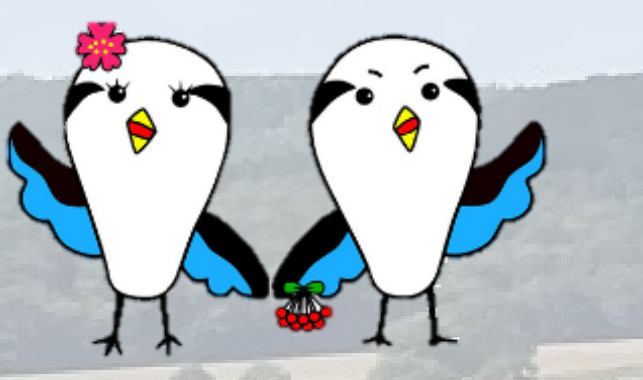


地域に根ざした学習を通じた地元出身者の主体性形成過程の分析

北海道浦幌町うらほろスタイルを事例として

○新里早映¹ 中島正裕²

¹一般社団法人十勝うらほろ楽舎 ²東京農工大学大学院連合農学研究所



1. はじめに

過疎地域の持続的発展に向けては

「地域、住民、学校の連携による人材の育成」が重要(新過疎法, 2021)

“地域で主体的に行動する人をいかに育てるか”は住民主体の地域づくりや地域に根ざした学習における実践的課題

既往研究をみると、地域づくりに関する住民の主体性の変化に着目した研究や住民との関わりが地域貢献意識を高めることを示した研究はある

しかしながら

- ① 住民の主体性がどのようなプロセスを通じて形成されるのかは明らかになっていない
- ② どのような働きかけや経験が主体性に影響を及ぼすのかについて十分な知見が得られていない

研究目的 地域に根ざした学習活動を推進する地域を事例に、地元出身者の主体性形成過程を明らかにし、その主体性形成過程に影響を及ぼす要因を考察する

2.3 調査分析方法

文献調査(うらスタの事業報告書、紀要論文、書籍等)とヒアリング調査(2024年2月22日~28日)を実施した

- 手順① うらスタの発展経緯と運営実態の把握
- 手順② うらスタを受けた地元出身者の主体性形成過程の分析
- 手順③ 主体性形成過程に影響を及ぼす要因の考察

調査協力者の概要

名前ID	性別	学年/社会人歴	在住地	主な活動
Aさん	女性	高校3年生	帯広市	カフェ出店
Bさん	男性	大学2年生	札幌市	町内ツアー企画
Cさん	男性	社会人5年目	浦幌町	蕎麦屋の継承
Dさん	男性	社会人3年目	浦幌町	浦幌部創設

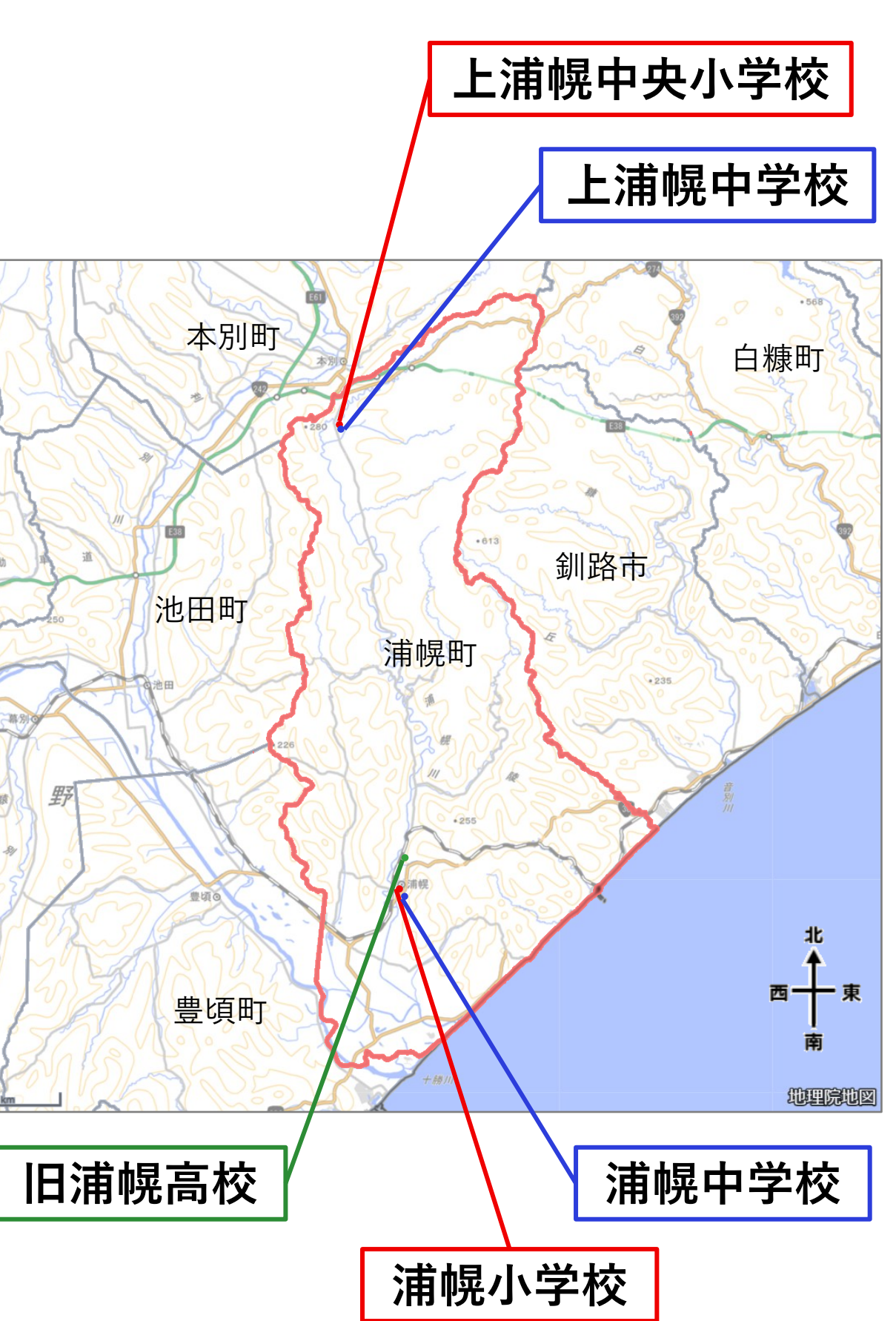
浦幌部とは



2. 研究方法

2.1 北海道浦幌町の概要

人口: 4,016人 (2025年10月末現在)
高齢化率: 42.51% (2020年国勢調査)
面積: 729.85km²

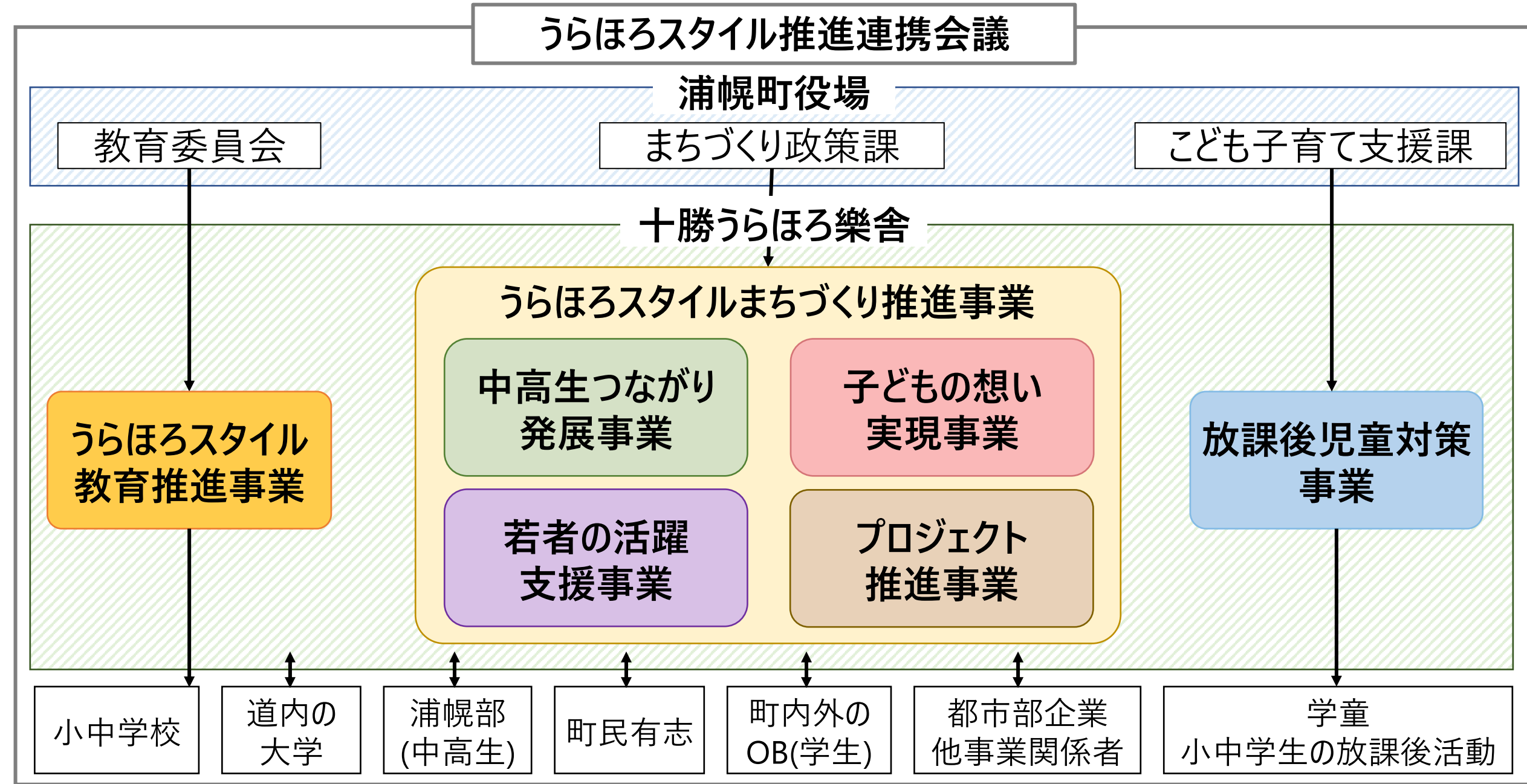


2.2 うらほろスタイルの概要

■うらほろスタイル(通称:うらスタ)とは

次世代を担う子どもたちが夢と希望を抱き「この町に生まれ育ってよかった」「引き継いでいきたい」と思える地域を大人たちがつくるとともに、子どもたちの生き抜く力を育むことを目指す協働活動

- ★合併不成立や高校閉校を契機に地域活性化の機運が高まる
- ★2007年「うらほろスタイル教育プロジェクト」が組織され浦幌中学校で「総合的な学習の時間—町おこし」がはじまる
- ★2019年~21年、3年連続で20代の転入超過が確認される



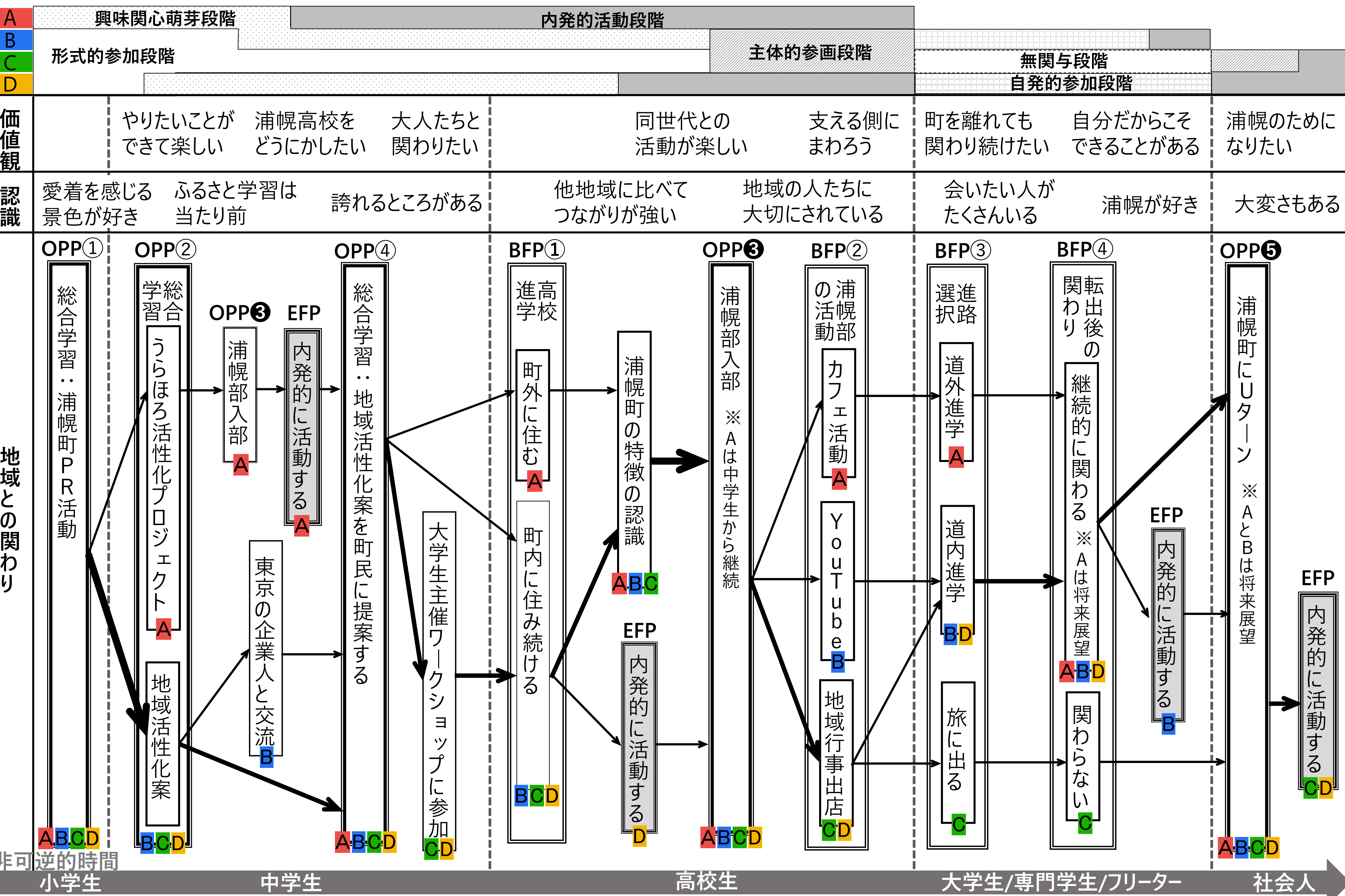
■複線径路等至性アプローチ (Trajectory Equifinality Approach: TEA)

時間経過に伴う人びとの経験について、特定の到達点(等至点)を定め、そこに至るまでの個人の選択や感情の変化を時系列で整理し、さらに、それらに影響を及ぼす社会的・文化的要因を可視化する質的研究手法

手順	内容
1. 等至点(EFP)の設定	本研究では「地元出身者が地域内で発的に活動する状態」を等至点とする
2. 調査対象者の選定とヒアリング調査	ヒアリング内容は調査協力者の承諾を得て録音し、逐語録を作成する
3. 口述データを切片化し時系列に整理	
4. 出来事をラベリング	
5. ラベルを線で結び、ありえた径路を追加	
6. 必須通過点(OPP)と分岐点(BFP)を定めて影響要因(SG,SD)を追加	
7. 第2層・第3層を追加	
8. 調査協力者による確認を踏まえ修正	

3. うらほろスタイルを受けた地元出身者の主体性形成過程の分析

地域内で発的に活動する状態を等至点(EFP)とし、地域との関わり、地域に対する認識、地域にかかわる価値観の変容のプロセスを描写した(下図は4名分の統合結果)



地域に対する認識・価値観の変容がみられる出来事を起点に時期を区切り、主体性形成段階として整理した

- ・無関与：地域との関わりを持たない
- ・形式的参加：地域に対する興味や参加意欲が低い
- ・興味関心萌芽：地域に対する興味や参加意欲を持ち始める
- ・自発的参加：自ら地域に関わろうと行動する
- ・主体的参画：主体的に地域活動の企画・運営を担う
- ・内発的活動：自らの内から湧き上がる願望や意志によって地域で活動する

内発的活動に至る時期やきっかけとなる経験は人によってさまざまであったが、いずれも、うらスタの活動を通じて主体性が高まったことが明らかとなった

■主体性形成過程の共通性と多様性

「内発的に活動する」(EFP)に至るプロセスには、共通性のある経験として5つの必須通過点(OPP)、多様性のある経験として4つの分岐点(BFP)が示された

・制度的必須通過点 (OPP①②④) うらスタの一環で行われる総合学習は、地域に対する興味関心を高めるとともに、内発的活動のきっかけになっていた

・結果的必須通過点 (OPP③⑤) 浦幌部での活動を通して、地域住民との関係を深め、主体的さらには内発的に地域に関わるようになった

・分岐点 (BFP①②③④) 進路選択によって、地域に関わらなくなった者がいる一方で、町を離れても自ら関わり続ける者がみられた

4. 考察

主体性形成過程には「活動のきっかけとなる声かけ」と「活動する身近な人の存在」が大きな影響を及ぼしていた。このことから、学校教員や友人、地域で活動する大人からの誘いや後押しが重要だといえる。また、内発的活動に至るタイミングは人それぞれであることから、学校教育と社会教育の連続性を確保し、成長段階に応じた学習機会を継続的に設けることが有効だと考えられる。

参考：宮前耕史・平岡俊一・安井智恵・添田祥史編著(2017)『持続可能な地域づくりと学校—地域創造型教師のために—』ぎょうせい。 / 吉村彩・広田純一(2005)『地域づくりにおける地域住民の主体性形成プロセスとその要因—若手県—関市本寺地区を事例として—』農村計画学会誌, 25巻論文特集号, 305-310。 / 植田大二郎・植田有一郎(2015)『社会関係資本と地域資源の活用による地域人材育成: 島根県離島・中山間地域の高校魅力化・活性化事業の取り組み』, 青山学院大学教育人間科学部紀要, 6, 1-20。 ※本研究は日本学術振興会特別研究員奨励費(202122848)の助成を受けて実施した。